



立て心よ 行け私よ

No. 8

文責:

校長講話「ハチドリの一としずく」

校長講話
令和5年
10月18日



既に3週間前になりますが、第33回墨坂祭、アフターコロナ元年の墨坂祭、一人ひとりが輝き、大変、充実した素晴らしい墨坂祭になりました。3年生が先頭に立ち、全校が墨坂祭に入り込んでいることが伝わってくる墨坂祭になったと思います。全校が『Discover～君とまだ見ぬ世界へ～』のスローガンのもと、多くの皆さんが、友・クラス・学年、そして自らの素晴らしさを発見できた2日間になりました。

さて、今朝は「ハチドリの一としずく」という短い物語を紹介します。南米のアンデス地方に伝わるお話です。きっと知っている人も多いことと思います。図書館にもあります。

辻信一『ハチドリの一としずく いま、私にできること』(光文社)より

この物語はここで終わっていますが、最後のページはこうなっています。

この話の続きは、次に挙げる点をよく考えて、それぞれが想像してみましょう。

- 「森」は動物たちにとって、どんな場所なのだろうか。
- 「森が燃える」ということは、動物たちにとってどんなことだろうか。
- クリキンディが「水のしずくを一滴ずつ運んだ」のは、どんな気持ちからだろうか。



◎森が燃えるという集団の危機を目の前にして、ほかの動物たちは、クリキンディの言葉をどう受けとめただろうか。

私たちが生活している場所、そしてその集団、つまり、各学級、各学年、そして墨坂中学校をよりよくしていくために、一人一人ができることはどんなことでしょうか。

廊下や教室に落ちているゴミを拾う、3m先 自分から元気よく挨拶、無言清掃やひざつき4回がけを毎日実践する、VS 活動に毎週参加する、8:15 には着席してる、2分前着席を守る等等。

さらに来月は後期人権教育月間です。

いじめや差別は絶対にしない、いじめや差別を見たらやめろと言う、あるいは友達や先生に相談する、自分でできる事が色々あるはずですよ。

一人の行動では何も動かないと思う人もいるかも知れませんが、

その力が2, 3人、10人、20人、100人、200人となれば、その集団は大きく動かし、さらに良い方向に向かうでしょう。

自分ができていることを考えてみる、そして実行していく、そうすれば、その姿に動かされて次に行動する人が現れることでしょう。

これも「立て心よ 行け私よ 行けあなたよ」です。



須坂市内中学校卒業学年親善音楽会



【壮行演奏会:校長先生のお話より】

先日の墨坂祭音楽会。1学年合唱、ボリュームがあり、ハーモニーが大変きれいでした。2学年合唱、迫力に圧倒されました。そして3年生。各クラス合唱。どのクラスも心を一つにして、ハーモニーを奏で、曲想を豊かに表現した合唱でした。さらに学年合唱です。私は「あなたへ」を聴いたときに、涙が頬を伝わりました。感動でした。

審査員の 校長先生から次のような講評をいただきました。

「立て心よ」です。

立派な3年生だなと思います。曲のハーモニーもさることながら、ステージのどこを見ても、自分の力を出

していない生徒がいない。自分のできることを 友のために使う、そんなつながりが感じられました。

「あなたへ」です。

「3年生とは、こういう歌を歌うのです。」その後輩に伝えるかのような歌声でした。きっと1、2年生は、来年の目標を新たにしたことでしょう。これだけの大人数での混声4部合唱の響きは、聞く人を納得させるものでした。賞に関係なく、ステージで歌う資格とはこういうもんだ、という姿を示してくれました。

とお褒め頂きました。

コロナ禍による制限が緩和され、歌を歌うことも以前のようにできるようになってきました。3年生は墨坂祭の準備や運営で忙しい中、学年合唱の準備もしっかりと進めてきました。3年生の3曲「校歌」「立て心よ」「あなたへ」。1、2年生のみんな、どうでしたか？

「今年も全校で校歌を練習する機会は少なかったけど、校歌って、こうやって歌うんだよ、1、2年生忘れないでね」というメッセージでした。

「立て心よ」は、昨年から墨坂中学校の学校教育目標となった「立て心よ 行け私よ」の元となった曲です。「1、2年生、私たち3年生の思いを、心を、墨坂中の魂をしっかりと受け継いでね」という心の叫びのようなものが込められていました。そういえば3年生が2年生の時、今年の1月です。立志式に向けての練習で、須坂市の小林教育長先生に教えていただいたときに、教育長先生は「この学年の意欲やまとまりがこの「立て心よ」にしっかりと表れています。いい学年ですね。この歌声の生徒達なら、墨坂中を立派に引っ張ってってくれるでしょう」と言われたことを思い出しました。

「あなたへ」は半年後に迎える卒業を心に置きながら、中学校3年間の友への感謝と互いの未来へのエールがひひしと伝わってきました。心を込めて歌ってきてください。「愛と涙 そして知るだろう 人生という名の迷路の果てに 信じ合えることの喜びと 悲しみを知った分優しくなれることを」心に染みる歌詞ですね。きっとまた、涙が伝えますね。



あなた達は6年生の時の親善音楽会はコロナ禍のために中止だったと聞いていますが、中学校は昨年に続いて、今年も通常通りの開催で、須坂市内の中学校4校全てが同じ会場で、同じ時を共にします。会場のメセナホールは墨坂祭で発表を経験している会場です。墨坂中の庭のようなものです。そうした地の利も生かして「動の墨中、メリハリのある墨中、ここに有り」を他の3校の前で堂々と示してきてください。あなた方、3年生ならできる。

「立て心よ 行け私よ 立て心よ 行けあなたよ」を150名全員が心に刻んで、3曲を歌い上げてきてください。私も会場で応援しています。

【壮行演奏会：3年生代表の話より】

私たち3学年は、明日「親善音楽会」に参加します。これは、須坂市内にある4校の3学年生徒が一堂に会し、お互いの合唱を披露し、聴き合うもので、須坂市内中学校の伝統行事にもなっています。最近では新型コロナウイルスによって実施できない状況でしたが、昨年より例年通りの形で行うことができました。

明日は3曲歌う予定ですので、一足早く、皆さんにご披露します。1曲目は私たちの誇りでもある「校歌」です。校歌としては珍しいアカペラの曲です。2曲目は「立て心よ」です。『立て心よ』は墨坂中学校の伝統である「立志式」のために、2013年に長野県内で多くの作曲をしている唐沢史比古先生によって作られた曲です。現在、教育長をされている小林雅彦先生が墨坂中学校の校長をされていたときに唐沢先生にお願いして作られたものです。歌詞は、当時の墨坂中学校の生徒達が「立志式」にふさわしい言葉を募って唐沢先生にお願いしたそうです。

「立志式」とは、かつて武家社会で満14歳のときに行われていた成人の儀式「元服」にならい、毎年2学年で自分の将来について考え、一人一人が将来の目標や誓いを立て発表する行事です。このときに『立て心よ』も毎年2学年合唱として披露され、墨坂中学校を代表する伝統行事になっています。さらに昨年度からこの『立て心よ』の歌詞の一節「立て心よ 行け私よ」が墨坂中学校の学校教育目標にもなりました。そんな先輩方から代々受け継いできた曲を最初に披露します。先輩方が歌詞に込めた思いや今の自分たちの思いが伝わればと思います。

次に紹介する曲は、先日行われた「墨坂祭」の音楽会で3学年合唱として披露した『あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ』です。この曲は、夢へ向かう希望と現実の厳しさ、そして困難に直面しても前へ進み続けたいという意味が込められており、これから進路に向かっていく私たち3年生にとっても勇気を与えてくれる曲であり、各パートが奏でるハーモニーがとても美しい曲です。

精一杯思いを込めて歌います。どうぞお聞きください。

令和5年度須坂市中学校卒業学年親善音楽会 Gooligth 「すこうチャンネル」放送予定

11月20日(月)・21日(火) 12:00/22:00

11月22日(水)～24日(金) 12:00/19:00/22:00

11月25日(土)・26日(日) 14:00

校門建立のお知らせ

かねてから本校同窓会理事会の皆様から、校門について次のようなご意見がありました。「学校の校門がないのは、さみしい感じがする」「旧校舎の時には校門があったと思うが・・・」「市内の他の中学校には全て校門がある。校門がある小学校も複数ある」「5年後に迎える創立70周年の記念事業として取り組んではどうか」「やるなら前倒して早い方がいいのでは」等々です。

そうした話し合いを経て、今年度の理事会において令和10年度に迎える「創立70周年記念同窓会事業」を前倒ししての校門建立の同意が得られ、進め方を同窓会会長様に一任されました。設計については同窓会名誉顧問様にご厚意でやっていただき、数社に見積もりをとってもらった結果、マツナガ建設様に施工をしていただくことが決まりました。こうした一連の過程については、理事会の皆様にご承認をいただいたものであります。



以上のような経緯で、校門建立の工事が来週から始まります。工期は11/13(月)～11/29(木)となります(校名板の設置とコーティングは年末の予定)。学校入り口の道路から約5メートル入ったところの左右に建立されます。工事にあたり、2m四方の囲いがされます。歩行者や自転車はもちろん、自動車の往来にも支障がないスペースは確保されますが、通常よりも狭くなります。ご来校の際は左右の確認、最徐行等、運転には十分ご留意いただきたくお願い申し上げます。